

数学科教育研究部会

分かる授業の工夫と授業実践 ～基礎学力の定着と考える力の育成～

I 主題設定の理由

ここ数年、数学嫌いや数学離れという現象が見られるなか、数学に対する苦手意識を持っている生徒が増えてきている。特に、文章問題や応用問題になると、その傾向は強く見られるようである。そのような中、毎年のように「分かる授業の創造」に焦点をあてた授業実践が多くの中で報告されている。

生徒により興味・関心を持たせるためには、数学が分かる楽しさ・できる楽しさを実感させることが大切である。また、数学教育を授業の中にととめず、より身近な題材を授業に取り入れていくことが、数学の必要性を実感することにつながり、生徒の興味・関心につながっていくのではないかと考える。そこで、本部会では、上記のテーマを設定し研究をしてきた。

教材・教具の開発など指導方法の工夫・改善、評価方法などの研究・実践を行い、上記の主題に迫っていきたいと考える。

II 研究の方法

1 具体的な研究の内容と方法

(1) 統一授業研の授業を通して、基礎学力の定着や考える力の育成を目指した指導方法などを検討する。

◎統一授業研の授業実践・研究協議を通して、基礎学力の定着や考える力の育成を図る。

◎小学校との連携を図り、授業実践を9月と1月に見せ合う。

(2) 観点別評価による単元末評価問題の作成を学年ごとに共同で行う。作成過程を通し、問題作成上の留意点や作成技術の向上等の研究を深める。さらに、過去に作成した単元末評価問題を各校で実施し、結果の考察を図る。

◎単元末評価問題の作成を行う。

◎昨年度までに作成された評価問題の実施を行う。

◎実施した評価問題の適否の再検討

(3) 個に応じた指導方法など情報交換を含めて研究を重ねる。

Ⅲ 成果と課題

1 授業実践

日時・場所	平成 21 年 1 月 28 日 (水) 山梨南中学校
授業者	雨宮 圭一郎 教諭
題材	1 年 平面図形 ～作図の利用～
目標	・今まで学習した基本的な作図をすることによって、与えられた条件を満たす図形の作図ができる。 ・仲間の意見を聞いて、自分の考えを深めることができる。

研究討議より・・・

- ・全員に分かる授業を意識し、授業を行ったが、予想以上に 1 人で考えてできる人がいなくて、残念だった。導入の部分での十分な確認が必要だった。(授業者より)
- ・問題の難易度がちょうど良く、題材が良かったので、生徒一人一人が意欲的に考えて取り組む授業になった。
- ・班の活動を取り入れたことによって、仲間同士で教えあう姿があり、一人一人の意欲が高まったので、グループ化が有効であった。
- ・答えを表記するとき、コンパスの色・答えの部分など色分けができていて分かりやすく良かった。
- ・作図の説明をもう少し多くの班にいわせても良かったのではないかと思う。また、その中でどの説明が良かったかを考えさせても良い。
- ・本部会のテーマでもある「分かる授業」に迫る授業になったと思う。

2 単元末評価問題の作成と実施及び考察

- (1) 今年度は、1 年「空間図形」2 年「確率」3 年「多項式」の評価問題を作成することができた。また、その過程を通して評価基準をより明確に捉えることなどもできた。
- (2) 昨年度までに作成した評価問題を複数校で実施し、その実施結果を考察することができた。学年ごとに複数校で実施したが、評価問題の適否をもっと時間をかけて考察していく必要がある。また、未実地の評価問題の活用も今後の課題として残っている。

今年度は評価問題の作成と評価問題の実施結果をもとに考察・検討を中心に研究を進めてきた。さらに、今後は過去に作成した評価問題の実施結果を分析し、一斉に指導できるもの・個に応じた指導が必要なものなどを明らかにし、今後の指導に生かしていきたい。そして、「わかる・できる・楽しい・学ぶ意欲」へつなげて、本部会のテーマでもある「分かる授業の工夫と授業実践」の達成度を少しでも上げていきたいと考える。

(部長 田中 美穂)